

2349 エヌアイデイ

鈴木 清司 (スズキ キヨシ)

株式会社エヌアイデイ社長

基幹事業が堅調に推移し、経常増益

◆東日本震災の影響、当期は軽微

はじめに東日本大震災の影響について、NID 東北(宮城県仙台市)を含め、約 1,500 名の社員は全員無事であった。実際の事業については、2011 年 3 月期への影響はほぼないものの、電力関係の主要顧客からの受注が約 80%を占める NID 東北への影響は、2012 年以降は避けられない状況であり、今期の業績計画にもすでに反映させている。また製造系のユーザーも多いが、各社によって若干違いはあるものの、多少の影響を受けると認識している。情報システム系については、一部の流通食品関係のユーザーに影響が予想される。ネットワークソリューション事業に関しては、影響はほとんどないとみている。

当社の連結子会社は 3 社である。まず NID・IS(千葉県船橋市)は、システム開発事業および情報処理サービス事業を行っている。金融関係、地方自治体といったユーザーが中心である。NID 東北(宮城県仙台市)は、電力関係のユーザーを中心にシステム開発事業を行っている。そして NID・IEは、金融関係および当社本体との取引を含む派遣事業を行っている。

◆関連子会社の苦戦を基幹事業でカバー

2011 年 3 月期決算は、売上高 146 億 38 百万円(前期比 99.4%)、経常利益 9 億 94 百万円(同 107.8%)、当期純利益 4 億 47 百万円(同 83.1%)となった。売上高は前期と同水準ながら経常利益は前年を上回り、ほぼ期初計画どおりに推移した。当期純利益は、投資有価証券評価損 1 億 89 百万円の計上により減少した。

増減の主な内容として、売上高が前期比 85 百万円減少したのは、情報システム事業で 1 億 80 百万円増加、ネットワークソリューション事業で 1 億 20 百万円増加の一方で、NID・IS 他関連子会社で 3 億 90 百万円減少となった結果である。特にデータエントリーの売上減少が影響した。

経常利益前期比 72 百万円増の内訳は、通信システム事業の前期比 1 億 60 百万円増、NID・IS 他関連子会社の同 80 百万円減である。

連結貸借対照表に関して、固定資産合計 24 億 44 百万円(前期比 2 億 26 百万円減)の減少は、主に投資有価証券評価損 1 億 89 百万円の計上によるものである。

キャッシュフローの状況については、営業活動によるキャッシュフロー 7 億 61 百万円(前期実績 6 億 83 百万円)、投資活動によるキャッシュフロー 2 億 4 百万円(同△2 億 46 百万円)、財務活動によるキャッシュフロー△1 億 75 百万円(同△1 億 74 百万円)であった。現金および現金同等物期末残高 48 億 59 百万円(同 40 億 70 百万円)は前期比 8 億円弱増加した。

◆6 セグメント別の業績概要

セグメント別の当期業績として、通信システム事業は売上高 29 億 38 百万円(前期比 93 百万円減)、営業利益 1 億 36 百万円(同 1 億 61 百万円増)となり、情報システム事業は売上高 30 億 9 百万円(同 1 億 87 百万円増)、

営業利益 3 億 7 百万円(同 20 百万円減)、ネットワークソリューション事業は売上高 46 億 61 百万円(同 1 億 29 百万円増)、営業利益 2 億 64 百万円(同 12 百万円増)であった。NID・IS は売上高 21 億 72 百万円(同 2 億 2 百万円減)、営業利益 99 百万円(同 86 百万円減)である。NID 東北は売上高 10 億 42 百万円(同 31 百万円減)、営業利益 74 百万円(同 11 百万円増)、NID・IE は売上高 8 億 15 百万円(同 74 百万円減)、営業利益 47 百万円(同 21 百万円減)となった。

通信システム事業では、自動車関連の受注が下期に増加し、売上は前年とほぼ同水準となった。収益面では、生産性向上とAndroid関連の引合い増加の効果等により大幅に増加した。情報システム事業では、生損保や共済、流通や製造業の主要顧客からの受注が好調であったが、収益は前年とほぼ同様であった。ネットワークソリューション事業では、主要顧客からの受注が安定的に推移し、売上・収益とも前年を上回る結果となった。NID・IS は、データ入力関連事業の受注減少やシステム開発案件の縮小によって、売上・収益とも前年を下回った。NID 東北は、電力関係の主要顧客からの安定受注を背景に売上は前年とほぼ同様、収益は前年を上回った。NID・IE は、派遣需要の低迷で受注が減少し、売上・収益とも前年より減少した。

◆今期増収増益を計画

2012 年 3 月期通期連結業績予想については、売上高 147 億 50 百万円(前期比 0.8%増)、売上総利益 28 億 12 百万円(同 4.3%増)、営業利益 10 億 10 百万円(同 8.0%増)、経常利益 10 億 20 百万円(同 2.6%増)、当期純利益 6 億円(同 34.0%増)を見込んでいる。

セグメント別の通期業績計画として、通信システム事業は売上高 32 億円(前期比 2 億 62 百万円増)、営業利益 1 億 90 百万円(同 54 百万円増)。情報システム事業は売上高 31 億円(同 91 百万円増)、営業利益 3 億 10 百万円(同 3 百万円増)。ネットワークソリューション事業は売上高 47 億円(同 39 百万円増)、営業利益 2 億 70 百万円(同 6 百万円増)。NID・IS は売上高 23 億円(同 1 億 28 百万円増)、営業利益 1 億 50 百万円(同 51 百万円増)。NID 東北は売上高 6 億 50 百万円(同 3 億 92 百万円減)、営業利益 50 百万円(同 24 百万円減)。NID・IE は売上高 8 億円(同 15 百万円減)、営業利益 40 百万円(同 7 百万円減)としている。

重点施策としては、「ソリューション型の営業へ転換」、「とる営業から生み出す営業へ」などの戦略的な営業活動に取り組むとともに、引き続き既存顧客への現場営業を徹底し、確実な受注を獲得していく。また、プロダクト関連ビジネスとして、「Nstylist」を中心とした新規業務分野へのビジネス展開や iPhone、iPad、Android 関連のシステム開発に取り組む。

◆バランス経営で安定成長を目指す

中期 3 カ年計画については、2014 年 3 月期業績計画として、売上高 165 億円、営業利益 13 億円を目標としている。売上高の内訳は、通信システム事業 39 億円、情報システム事業 33 億円、ネットワークソリューション事業 49 億円、NID・IS 27 億円、NID 東北 8 億 50 百万円、NID・IE 8 億 50 百万円である。

当社グループの事業戦略として、まず 6 セグメント(当社 3 事業と関連子会社 3 社)を基幹事業とし、バランス経営を継続していく。2011 年 3 月期の主要業種別売上高構成比は、保険(生損保・共済)24.3%、運輸(航空)10.4%、自治体 5.5%、モバイル 12.5%、車(ITS)4.9%、電力 6.6%となっている。当社の特徴は、1 つのユーザーに対し、システム開発・運用管理・データエントリーの 3 つの領域にわたって取引を行っている点である。

また、付加価値ビジネスへの投資として、パートナーとのアライアンスビジネス、NID プラットフォーム「Nstylist」の販売、iPhone、iPad、Android 等のアプリケーション開発、従来からのプロダクトの再活用と製造・販売に取り組んでおり、その波及効果として、iPhone や iPad、Android 関連の引き合いも増加している。

「Nstylist」は、Android のサービスプラットフォームとして、あらゆるニーズに対応したアプリケーションをスピーディに作成することが可能である。また企業のリソースを最小限に抑えつつ、優れたマーケティングデータを収集・活

用できる環境を構築することが可能である。スマートフォンの普及が急速に拡大する中、当社では東京ビッグサイトで開催された第1回「スマートフォン&モバイルEXPO(2011年5月11~13日)」へ出展し、多くの注目を集めた。

事業戦略のまとめとして、従来の基幹ビジネスである6セグメントのバランス経営と、NIDプラットフォーム開発をはじめとした付加価値ビジネスへの投資に取り組み、バランスチェックをしながら財務体質を強化し、安定成長につなげていきたいと考えている。

事業展開としては、成長分野を通信システム開発、安定分野を情報システム開発、基盤分野をネットワークソリューション・データエントリーと位置づけ、これらの基幹事業をバランス経営により安定的に業績をのばしていくことにプラスして、新たな収益の柱を育てるべく付加価値ビジネスを積極的に展開していく。

当社のビジョンは、高い専門性を追求する「得意技へのこだわり」、常に技術に磨きをかける「品質へのこだわり」、事業に軌軸をもつ「基本へのこだわり」によって、専門店経営でユーザー価値を満足させるベスト・パートナーになることである。

株主還元策については、当期の配当金予定は45円とし、安定した配当を継続していく方針である。目標とする経営指標として、売上高経常利益率10%、自己資本利益率(ROE)15%を達成していきたい。

◆ 質 疑 応 答 ◆

東日本大震災が今後与える影響についての考えを伺いたい。

システム開発業界では、今期後半以降に震災の影響が表れるとの見方がある。また場合によっては、長期間かけて影響の出ってくるユーザーもいることが想定される。そういう意味で、後半に影響がはっきり出てくると考えられる。その一方で、当社は幅広いユーザー層を保有しているため、ユーザー各社の影響が相殺することにより、厳しい状態ではあるが、大きな影響は受けないと考えている。

(平成23年5月19日・東京)